

Copilot+ PC の 定義・機能

簡単まとめガイド



Copilot + PCの定義・ポイントとは？

✓ AI重視の新しいWindows PCの規格

- ➡ 強力なAI処理を **クラウドではなくPC内部（ローカル）** で **高速・安全に実行する** ための設計であり、従来のPCとは処理方式が根本的に異なる。

✓ 特徴的ポイント

- ➡ **高速なAI応答**（クラウド往復が不要）
- ➡ **プライバシー保護**（機密データを外部に送信しない）
- ➡ **オフラインでも一部AI機能が利用可能**
- ➡ **バッテリー効率の向上**（超高速NPUによる効率的処理）

Copilot+ PCの主なハードウェア要件

Copilot+ PCとして認定されるには、以下の条件が必須。

要件	内容
NPU（ニューラル・プロセッシング・ユニット）	1秒間に 40兆回以上（40 TOPS） の演算が可能なAI専用チップ搭載
メモリ（RAM）	16GB以上
ストレージ	SSD・UFSで256GB以上
その他	Microsoft承認のプロセッサ採用

かつてはQualcomm Snapdragon系が中心だったが、**IntelやAMD搭載モデルも対応機種に拡大中。**

Copilot+ PCでできる主なAI機能

リコール (Recall)	プレビュー機能 ● 過去の画面操作（閲覧・ファイル・チャットなど）のスナップショットを定期的に記録 ● スナップショットの解析により、曖昧な自然言語で過去の情報を検索できる ※ プライバシー懸念により、ユーザーが明示的に有効化する方式に変更済み（Windows Hello資格情報が必要）
ライブキャプション	リアルタイム翻訳 ● 再生中の音声を、オフライン状態でもリアルタイムで字幕化・翻訳 ● 会議・動画・ポッドキャストなど、40以上の言語に対応（順次対応拡大予定）
コクリエイター (Cocreator)	● 「ペイント」などで文字指示やラフスケッチから高品質な画像生成 ● 「フォト」でのAI編集（解像度向上・不要物除去など）も可能
Windows StudioEffects	● ビデオ通話時の背景ぼかしやカメラ補正、ノイズ抑制、「アイコンタクト・テレプロンプター」などAI処理による自然な補正をPC内で実行

従来のPCとの違い

項目	従来のPC	Copilot+ PC
AI処理場所	クラウド中心	PC内部（NPU）中心
応答速度	遅延あり	高速
プライバシー	クラウド依存	ローカル処理で高め
オフライン機能	弱い	一部可能

ユーザー視点：必要な人・不要な人

導入を検討すべき人

- 日常的にAIを活用し **生産性・効率を上げたい人**
- 士業、研究者、企業の開発者など、**機密情報を扱うプロフェッショナル**
- 画像生成・編集や高度な翻訳機能を使う **クリエイティブ業界の人**
- 最新技術を体験したい **アーリーアダプター**

急いで買い換える必要がない人

- メール・Web閲覧・Officeの基本作業のみで十分な人
- ChatGPTやGeminiをブラウザでたまに使う程度な人
- AI機能をほとんど使わない人

※ 価格帯は15万円台～30万円以上とやや高め傾向

まとめポイント

- ✓ **Copilot+ PC = AIをPC本体（ローカル）で使いこなすPCの新しいエリート規格**
- ✓ 強力なAI専用チップ（NPU）を搭載し、高速・プライベート・効率的なAI体験を提供
- ✓ 単なるAIアシスタント搭載PCではなく、**AI専用機能を最大化できる仕様**



【当資料における免責事項】

本資料は、作成時点（2026年2月）における公開情報を基に作成しております。

AI技術および関連サービスは極めて変化が速く、各ツールの料金体系、プラン内容、提供機能（UI/UX含む）などは、頻繁にアップデートが行われます。

そのため、本資料の閲覧時には情報が古くなっている可能性がございます。当社としても定期的な情報のキャッチアップと資料のアップデートに努めておりますが、あまりに変化のスピードが速いため、すべての変更をリアルタイムに反映することが困難な場合がございます。

そのため実践の際は、あくまで作成時典の参考情報としてご覧いただき、最新の正確な情報は各サービスの公式サイト等でご確認ください。